

令和5年度 福岡高等学校アクションプラン — 1 —

重点項目	学習活動（教科指導の充実）	
重点課題	教科指導の充実・教育力の向上と自主的学習習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を実現するために、生徒の実態に即した教科指導の充実・教育力の向上が求められている。</li> <li>・生徒の学力向上を図るためには、自主的学習習慣の定着が不可欠であり、その能力を伸ばす教育の推進が必要である。また、生徒の知的好奇心、学習意欲、探究心を引き出し、自身の興味・関心、適性などの認識や将来に対する展望を持たせられるように、ICT活用や観点別学習評価の導入など教育環境の変化に対応しながら、教員自らが率先して研修することが求められている。</li> </ul>	
達成目標	① 互見授業の参観回数 1人3回以上 外部研修会等の参加回数 1人2回以上 ※オンライン研修を含む	② 生徒の学習に対する満足度 自己評価シートの学年平均 2.9点以上/4点満点(72.5%)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間随時、互見授業を実施し、相互に意見交換を行うことで授業改善につなげるとともに、教科部会を開き教科全体で事後研修を行う。</li> <li>・外部の研修会や研究会などへの積極的参加を推奨する。参加者が研修内容を教科や校内で共有し、指導や評価方法等の改善に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業や課題等、学習への取り組み状況について、生徒の自己評価を実施する。</li> <li>・学習状況調査や自己評価集計をもとに個人面談を実施し、生徒の実態と学習や将来に対する意識を把握する。</li> <li>・学年を中心とし、生徒の実態に応じた課題の内容や量を調整し、生徒の自主的学習が定着するよう工夫する。</li> </ul>
達 成 度	① 互見授業の参観回数 ※( )は昨年度 1人あたり 3.9回(3.0回) 1学期 2.1回(2.1回) 2学期 1.7回(0.96回) 外部研修の参加回数 ※( )は昨年度 1人あたり 4.5回(2.1回)	② 生徒の学習に対する満足度 自己評価シートの学年平均 ※( )は昨年度 1学年 2.9点/4点満点(3.0点) 2学年 3.0点/4点満点(2.8点) 3学年 3.1点/4点満点(3.0点)
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別学習評価が始まって2年目となり、多くの教員が評価に関わるようになったことから、授業での評価方法やその実施状況を参考にするため、教科の枠を超えて参観する回数が増えた。参観後は、積極的に意見を交わす場面も見られた。</li> <li>・コロナ禍以降Webによる研修が定着したことから、研修に参加しやすい環境になったことから例年に比べ研修への積極的な参加が見られた。(Web研修の割合38.5%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学年は例年に比べ、若干上昇志向が弱めで、積極的に学習に取り組む態度を育成する必要があった。学年では、上位層を牽引役として全体の学習への意識を高めようとする雰囲気作りを進めている。</li> <li>・2学年はグループワークを積極的に取り入れ、互いに刺激し合って学習に取り組む雰囲気作りが効果的にはたらき、中だるみと言われる時期においても満足度を維持できた。</li> </ul>
評 価	A	A
学校関係者の意見	観点別学習評価が導入されているが、互見授業では教科の枠を超えて参観する教員が増えているとのことで、新たな発見があると思う。刺激を受けることでモチベーションアップに繋がると思う。	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観点別学習評価を通じて授業改善を行っていきにあたり、それぞれが工夫していることを共有したり、意見を交わしたりする機会として互見授業は効果的に機能していると思われる。しかし、普段は授業の準備や校務に時間が取られ、授業参観の時間を捻出し難い状況も見受けられるため、参観機会を確保するための工夫が必要である。また、Web研修が定着し、研修に参加しやすい状況になってきていることから、今後も積極的な研修参加を呼びかけていきたい。</li> <li>・学期ごとに集計される学習満足度は、学習への意識を高めるためにいつどのような手立てを必要としているかを知る目安となる。生徒は年度によって気質も異なるため、学年の取り組みが前年度踏襲で終わらないように、学年や進路指導部と連携を取りながら学習指導の充実を図っていく必要がある。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和5年度 福岡高等学校アクションプラン —2—		
重点項目	学校生活（生活指導の充実と健康な心身の育成）	
重点課題	基本的な生活習慣の確立と学校生活への適応	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素直でおとなしい生徒が多く、平素からの挨拶が不得手な生徒が見られる。</li> <li>・自分の気持ちを表現することが苦手な生徒が見られる。</li> <li>・思春期における心の問題を抱えている生徒がいる。</li> <li>・普段の掃除に加えて、始業式・終業式の時には大掃除を、7月にはワックスがけを実施している。</li> </ul>	
達成目標	① さわやかに挨拶しようと心がけた生徒の割合  90%以上	② 心の相談日や教育相談の実施 年間15回前後 ③ 特別清掃（大掃除やワックスがけ）の実施 年間7回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治委員による挨拶の働きかけ</li> <li>・定期的（月1回）な挨拶・服装指導やさわやか運動などでの働きかけ</li> <li>・教職員側からのさわやかな挨拶</li> <li>・生徒指導部、学年、保健厚生部が連携し、生徒の悩みや問題行動について早期発見と迅速な対応に協力して取り組む。</li> <li>・カウンセラーによるカウンセリングが必要な生徒を把握し、実施後には関係者と協議をする。カウンセラーによる講演会を実施する。</li> <li>・大掃除やワックスがけを実施し、生徒の学校美化意識を向上させる。</li> </ul>	
達成度	① さわやかに挨拶しようと心がけた生徒の割合（よくできた・まあまあできたと回答した生徒の割合） 1年87%、2年89%、3年94% 全体90%	② 心の相談日や教育相談の実施 年間15回（2/22、3/5含む。） ③ 特別清掃（大掃除やワックスがけ）の実施 年間8回（2/29、3/6含む。）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回（4月～12月）の挨拶・服装指導（正門・生徒玄関で生徒・職員合同で実施）</li> <li>・6月の高校生さわやか運動でのあいさつ運動（生徒会・PTA合同で本校で実施、小・中学校と合同で小学校で実施）。あいさつ推進ポスター・横断幕の作成・掲示。</li> <li>・教職員側からのさわやかな挨拶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回以上のスクールカウンセリングの日を設け、悩みを持つ生徒と面談するとともに、必要な場合は、面談後に担任や学年主任を含めた個別指導会議を実施した。</li> <li>・入学式・卒業式の前日、保護者会や入試の前日などの節目には、大掃除や特別清掃を行い、普段は目の届かない場所を重点清掃項目として美化に取り組んだ。</li> </ul>
評 価	B	A
学校関係者の意見	さわやか運動では生徒が大きな声できちんと挨拶してくれたが、個人で学校に来たときは挨拶する生徒が少ない。挨拶やボランティアをする意味を説明すればよいのでは。	清掃活動は自らの生活空間を清潔に保持しようとする美化意識の向上に繋がる。教職員からの声かけにより生徒の意識も高まると思う。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校は挨拶に対する意識が他校と比べて低いように感じるので、次年度以降も生徒だけでなく教員・PTAの協力を得て、積極的に挨拶を交わせる雰囲気作りを目指したい。他校では、運動部の生徒を巻き込んで挨拶運動を展開している事例もあるので参考にしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心の問題を抱える生徒に、教職員が保護者やSC、医療機関と連携して対応する教育相談体制の一層の充実を図りたい。</li> <li>・清掃は、概ね良好に行われているが、行き届かない場所もあるので、一層美化意識を持たせるよう指導したい。ただ、職員数の割に校舎が広いので、清掃分担を考えるとときに工夫が必要である。</li> </ul>

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）

令和5年度 福岡高等学校アクションプラン — 3 —

重点項目	進路支援（進路目標の設定とその実現）	
重点課題	進路意識の高揚と、納得のいく進路選択の実現	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の能力・適性に対する認識が十分でないため、将来の自分のあり方に対して、主体的に考えることができない生徒がいる。</li> <li>・学期や学年の進行とともに進路意識を高められる指導と、3年生には受験に向けた適切な支援を行う必要がある。</li> </ul>	
達成目標	① 進路講話等による進路意識の向上 校内での進路講話等 各学年年間2回以上	② 受験への取り組みに対する満足度 (卒業時：3年生対象) 満足：60%以上 不満：10%未満
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生に対し『職業人が語る会』を実施し、自己の将来について主体的に考える姿勢を伸長させる。</li> <li>・2・3年生に対し、大学生による進路ガイドンスや外部講師による進路講話により、具体的な進路目標を持たせ、主体的に学習する態度を育てる。</li> <li>・3月に、卒業した3年生が2年生に講話を行うことで、具体的な進路意識と学習意欲を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面接を通して生徒の進路希望を十分に把握し、受験校の選定や学習に対する助言・支援を行う。</li> <li>・入試動向や校内テスト・外部模試の分析結果を、学年会や進路検討会等で情報を共有し、面接や教科指導等に生かす。</li> <li>・教科や小論文の添削、面接指導等の個別指導を、全校体制で計画的に実施する。</li> </ul>
達 成 度	① 1学年 2回 2学年 3回（3月に+1回予定） 3学年 2回	② 満足 65%（満足 21%、まあまあ満足 44%） 不満 6%（やや不満 5%、不満 1%）
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は8月末に社会人、9月に外部講師による2回、2年生は8月末に大学生、11月に大学の先生、1月に外部講師による3回、3年生は6月に外部講師、8月末に大学生による2回の講話等をそれぞれ実施した。</li> <li>・『進路ガイドンス』、『職業人が語る会』での身近な方の講話は生徒に好評であった。</li> <li>・大学の先生による模擬講義では、学問や進学に関して刺激を受けた生徒も多かった。</li> <li>・外部講師を招いての進学講演会（1,2学年）は、進路意識の向上につながった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受験を振り返り、満足とした生徒65%、不満とした生徒6%と目標を達成した。</li> <li>・担任による個別面接を、最低5回（1・2学期各2回、共通テスト後1回）実施し、生徒の進路希望の把握に努め、様々な助言等を行った。</li> <li>・7月、12月、共通テスト後に進路検討会を実施し、生徒の進路希望の共有化を図るとともに、担任が生徒により適切な助言が行えるようにアイデアを出し合った。</li> <li>・生徒の進路目標実現のため、全教員が分担して個別添削指導（教科、小論文）や面接指導等を実施している。</li> </ul>
評 価	A	A
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡高校は進学率も良く、頑張っていると聞いており評判もよい。</li> <li>・大学の模擬授業を受講することは素晴らしい試みだと思う。</li> <li>・「高校生活でこんなことができたならよかった」というアンケート調査を卒業して間もない生徒、在校生にしてはどうか。若い人の意見を拾い上げることも大切だ。</li> </ul>	
次年度へ 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新課程対応の入試を控えて、共通テストの変更・学校推薦型選抜、総合型選抜による受験枠の増加など、全国的なさまざまな変化への対応が必要になる。これまでの受験対策指導を生かした上での改善を図る必要がある。</li> <li>・大学生による講話は生徒に好評だが、近年インターンシップなどの影響で学生講師の確保が困難になっている。講師を確実に確保する方法を模索したい。</li> </ul>	

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）

令和5年度 福岡高等学校アクションプラン — 4 —

重点項目	特別活動（ボランティアと図書）	
重点課題	ボランティア活動の実践 活気ある委員会活動の継続と全校生徒の読書習慣の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア委員会や部活動を中心とした地域施設への訪問・交流等が再開できるよう働きかけつつ、校内でもできるボランティアを考える。</li> <li>・今年も図書館を学習の場として、多くの生徒が活用している。</li> <li>・昨年からの1, 2学年との連携により、図書の貸し出し数が安定してきた。</li> <li>・委員生徒が主体となり、図書館だよりの発行、学校祭の企画や運営がされている。</li> </ul>	
達成目標	① “ボランティア活動に参加してよかった” 割合 参加者の90%以上	② 生徒の主体的な委員会活動による生徒の読書量（全校生徒の年間貸出総数）の向上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア委員会を中心に、校内でも行える活動を考えつつ、並行して外部からのボランティアの紹介を幅広く行い、参加者を募る。</li> <li>・全校生徒からの参加を募り、参加後の意識調査を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員会での話し合いを通して、読書の在り方と啓蒙活動の推進を図りたい。具体的には、「図書館だより」「店頭購入」「読書会」などで、魅力ある情報の発信力を高め、生徒がより気軽に読書に親しむ機会を多く設けたい。</li> <li>・図書部内での話し合いと連携をさらに図り、業務内容の改善に努める。</li> </ul>
達 成 度	ボランティア活動に参加して「よかった」割合 70.1%	参考総貸出数 R5:1258 冊(2月時点)、R4:1252 冊
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奉仕活動（学校単独） 通学路や学校周辺の清掃活動を実施。</li> <li>・募金活動 学校祭で赤い羽根共同募金を呼びかけ、集まったお金を団体へ送金した。 能登半島地震で被災された方への募金を呼びかけ、集まったお金と学校祭の収益を日赤に送った。</li> <li>・ベルマーク収集 集まったベルマークを集計し、ボール等に換え、ひばり園に寄付する予定。</li> <li>・つくりもんまつりへの参加、清掃 美術部は作品制作、E S S 部は案内、清掃には生徒会と有志が参加した。</li> <li>・高岡聴覚総合支援学校訪問演奏会 演奏とダンス、手話コーラスで交流を予定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が主役となり委員会活動が行われている。とりわけ、4年ぶりに復活した学校祭恒例の古本市「来ぶらり（らいぶらり）」の復活は、委員生徒からの強い要望により実現し、たくさんの来場者と売上があった。その売上金を利用して、昨年好評だった「受験開運おみくじ（英文付き）」を設置した。</li> <li>・読み聞かせボランティアは、例年、図書委員以外の生徒からの参加希望も多いことが嬉しい悩み種であった。しかし、今年度は図書委員を中心に実施したいと早々に意思表示があった。これは大変喜ばしいことであった。練習時間が思うように取れず、準備段階では苦労したものの、当日はみんな充実した表情を見せていた。</li> </ul>
評 価	D	B
学校関係者の意見	地域の自治会長との会話の中で、ボランティア活動の一環として学校付近の交差点にある花壇の整備を福岡高校生と地元老人会の人で行えばどうかという話が出ているが協力してもらえるか。	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動参加後の意識調査では「何も感じなかった」割合が30%もいたので、ボランティア委員会を中心にもっと達成感ややりがいを感じられる活動にできるよう工夫していきたい。</li> <li>・今後も図書委員生徒が意欲的に委員会活動が実施できるように、学習や部活動とバランスよく実行できる協力体制を学年や部活動顧問にも働きかけたい。</li> </ul>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和5年度 福岡高等学校アクションプラン —5—

重点項目	その他（実践的英語力の向上と国際理解教育の充実）
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CAN-DO リストを有効に活用し、英語の4技能をバランス良く伸ばす。</li> <li>・語学研修等を通じて英語実践力を高め、国際的な視野を持った人間を育成する。</li> </ul>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を使った日常会話レベルの対話は、ペアワークやグループ内で出来るようになってきているので、これからは話題に応じて、より深く、より詳しく、自分自身の意見や考えを表現できる段階に移行する必要がある。</li> <li>・英国語学研修はコロナにより中断されていたが、今年度から再開することとなった。英国での語学研修は他校にはない本校の伝統ある研修行事なので、今後さらに発展できるように現在プログラムの再点検を行っているところである。</li> <li>・長年、英語コースで培ってきた学習方法や言語実践活動を文系・理系すべての生徒にも生かせるようなコミュニケーション能力向上を図った授業実践を行っている。</li> </ul>
達成目標	<p>①実用英語技能検定の取得率 2年終了時まで 準2級以上 80%      英語コース3年終了時まで 2級以上 90%</p> <p>②GTEC（コミュニケーション能力テスト）の得点 1年                      690点以上      80%      2年英語コース 810点以上 80% 3年英語コース 900点以上      70%</p> <p>③海外語学研修参加生徒の充実度 研修全体を通して“とても良かった”割合 80%以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CAN-DO リストに基づき、各学年における学習目標を学年当初に生徒へ提示する。また、その成果を英検やGTECなどのデータを活用して客観的に測定や検証を行う。</li> <li>・英国語学研修への参加が、英語コース、文系、理系を問わず全校生徒にとって魅力ある研修であることを、普段の授業での話題としてから伝えていくことも肝心である。</li> <li>・研修の事前、事後の指導の充実を図り、研修を単発のイベントで終わらせることなく、更なる学習の動機付けとなるようにする。</li> </ul>
達成度	<p>①実用英語技能検定の取得率 2年終了時まで 準2級以上 81.3%      英語コース3年終了時まで 2級以上 91.7%</p> <p>②GTEC（コミュニケーション能力テスト）の得点 1年                      690点以上      76.3%      2年英語コース 810点以上 80.1% 3年英語コース 900点以上      52.3%</p> <p>③英国語学研修終了後のアンケートで、研修全体を通して“とても良かった”割合 84.6%。</p>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語検定は、できるだけ1年次に準2級を取得できるように受検を促している。また、一次合格者全員を対象に二次面接指導を行い、全員が合格できるように支援している。</li> <li>・コロナ禍で実施できなかった英国語学研修を再開。保護者へのアンケート結果を参考に研修期間、研修先等を検討した。国際社会状況により研修期間は3/2(土)～3/11(月)の10日間と以前より短くなっているが、選考会議を経て1年生12名、2年生14名の計26名の生徒が参加することとなり、現在事前研修に励んでいる。</li> <li>・英国語学研修参加生徒には、のべ15回にわたる事前研修（研究発表を含む）を計画的に実施している。参加生徒（団員）の相互理解と連帯を強化する活動を行っている。</li> </ul>
評 価	① A                      ② C                      ③ A
学校関係者の意見	英国語学研修があることが魅力だと思う。少しでも参加生徒の自己負担を減らせないか。自己負担金を減らすことで「福岡高校に入学すれば、英国語学研修に参加できる」というのを魅力にはどうか。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定等の取得は生徒個人の家庭学習による部分も大きいので、学習時間が確保できるよう学習課題のあり方など、学校の学習活動全体での配慮が求められる。今後は、英語科だけの達成目標ではなく、他教科からの理解と協力を積極的に働きかけることも必要である。</li> <li>・国際社会状況を見極めながら、英国語学研修が少しでも生徒にとって充実した内容となるよう検討していきたい。</li> </ul>

（評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった）